

(規則) 様式

政務活動費成果報告書

令和4年10月18日

犬山市議会
議長 三浦正七 様

議員名 柴山一佳

下記のとおり、_____の成果を報告いたします。

(1) 年月日	令和4年10月12日(水) ~ 同 年 10月 14日() (2泊3日)
(2) 場所	長崎市
(3) 形態	会派 (清風会) : その他 ()
(4) 内容	別紙
(5) 成果・提言	別紙



視察報告書

令和4年10月12日～14日

視察先：第84回全国都市問題会議

会派：清風会 政務調査



全国都市問題会議は、平成12年第62回長野「都市と行動情報化」、平成23年第73回鹿児島「都市の魅力と交流戦略」に続き3回目の参加。毎回、参加者数の増加を感じる。特に今回は多く、2000人を超える参加者があったと思う。

まずは、会議の進行を時系列的に振り返ってみたい。

第一日目

基調講演 ジャパネット社長の高田旭人氏

主報告 田上長崎市長 一般報告4本：田中輝美島根県立大准教授、佐藤尾山形市長、高尾忠志地域力デザインセンター代表理事

それぞれ60分から70分講演した。

内容

基調講演は、ジャパネットの使命は、みつける→磨く→伝える、を徹底してやってきた。これだけ。

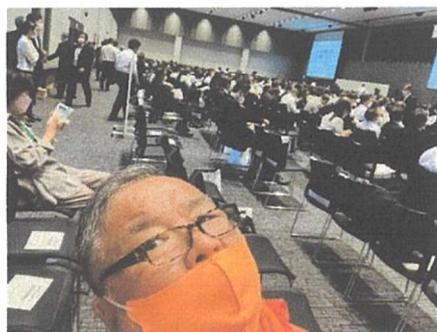
具体的に今やっていることは、2万人収容の稼げるスタジアムを作ること。19200席で売り上げ80パーセントにしかないが、残りの800席をVIP席とし残りの20パーセントを稼ぐ。これをビジネスモデルとしていくそう。

田上長崎市長：ネットワーク型コンパクトシティを目指す

田中輝美島根県立大准教授：都会生まれのふるさとへの渴望はリアル。地方はその答えを持っている。

佐藤尾山形市長：山形五堰で地域の魅力づくりをしたい

高尾忠志地域力デザインセンター代表理事：ライティングは人間が見せたいように見せることができる。



第二日目

パネルディスカッション

コーディネーター

大杉覚都立大教授

パネリスト：野口智子ゆとり研究所所長、田中山梨大学教授、桐野長崎コンプ

ラドール理事長、都竹飛騨市長、藤原伊丹市長

それぞれが、10 分間自己紹介から、自分の活動、自分の魅力ある街づくりの為の考え方を述べた。

全体を通して印象に残ったスピーカー

田中准教授「人口が減っていくことを覚悟しての街づくりをしていかねばならない。」

野口氏「とにかく誰でもわが町に来てくれればいいというものでもない。なぜなら、人にはいい人も悪い人もいる。」

桐野氏「長崎はお金がないので、市民に長崎の良いところを紹介するボランティアガイドになってもらう活動をした。そうしたら、長崎市民自身が知らなかった長崎の良さを見つけることになり、長崎市民自身がびっくりするとともに、自信を持った。これは、人間形成と同じことで、自分の良さを知っていくことで自分に自信が生まれ、それがひいては人を引き付ける魅力となっていく。人を集めるために、ハード面を整備しても、得てして建物だけが残ってそれを維持するのに逆に市民に負担になるケースもある。人を育てることは決して負の財産にはならない。どこの町でも実践できるので、是非やっていただきたい。」

犬山への提言

① 犬山も平成 22 年をピークに人口が微減になっているが、これに一喜一憂することなく、私は、田中氏のおっしゃるように、人口が減ることに四つに組んでその中でどうやって市民の豊かで明るく楽しい日常を育てていくかを実践していくべきだろう。

② 町の魅力づくりの手法として、なんでもただとか安くとか経済的に恩恵の受けられるような施策を打ち出す自治体があるが、そうすれば、お金にどん欲な人々が集まりかねない。もう少し違ったその土地ならではの魅力を発信しそれに納得できる人々に市民になっていただく施策を打つべきだろう。

③ 町のマイ名所探しは、グッドアイデアだと思う。犬山でもぜひやるべきだろう。



尚、本会議は、10月13日及び14日であったが、初日の会議が午前9時半開始であったので、前日から長崎に入った。